

令和 4 年 5 月 25 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04708

研究課題名(和文)アウトカム評価を軸とするASEANの高等教育質保証と日中韓への影響の実証研究

研究課題名(英文) The Practical study of ASEAN Higher Education Quality Assurance and Its Influence on Japan, China & Korea Through the Learning Outcome Assessment

研究代表者

早田 幸政 (HAYATA, Yukimasa)

中央大学・理工学部・教授

研究者番号：30360738

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本調査研究は、「学習成果」の達成度評価を通じた高等教育の質保証とそのフィードバックの在り方を模索することを基本テーマに掲げた。そして、同調査研究を、主に、ASEANと日中韓を対象にこれを行った。ASEANについては、同地域を包括した高等教育質保証枠組の考察を行ったほか、マレーシア、ベトナム、インドネシアといった個別の国々の高等教育質保証システムの調査も実施した。またこれを補完するものとして、米国の専門分野別ア krediteーション・システム並びに「学習成果」の達成度評価に関わる欧米の最新の学説動向の調査も行った。

以上の調査研究の成果は、『研究成果報告書』に取りまとめ二次に亘って刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国高等教育政策は大学に対し、教学マネジメントの重要な一翼をなす「内部質保証」の仕組みの中で、学生に「期待」する「学習成果」の達成度のアセスメントを通じ、各学位にふさわしい付加価値を付与すること、そしてそうした一連の営為の中で教育の質保証と改善に向けたフィードバックを行うこと、を求めている。本研究は、我が国の近隣地域や国々の中で、「学習成果」の達成度評価とそのための内部・外部の質保証の仕組みがどう構築され、如何に効果的に営まれているかの調査・検証を通じ、我が国大学の内部質保証と認証評価による外部評価の協働の中で在るべき高等教育質保証の方向性を探求しようとするものである。

研究成果の概要(英文)：The fundamental purpose of this study is to inquire Higher Education Quality Assurance(QA) and the feedback through the learning outcome achievement assessment. In this study process, we investigated ASEAN Higher Education QA Framework, and the QA system of Malaysia Vietnam, and Indonesia. To make up for this investigation, we researched the specialized accreditation system in America, and a trend of European and American theories about the learning outcome achievement assessment.

Finally, we published the study reports twice as research results.

研究分野：教育社会学

キーワード：学習成果のアセスメント 内部質保証 外部質保証 ア krediteーション ASEAN

1. 研究開始当初の背景

我が国大学に対し、「学修成果(ラーニング・アウトカム)」の達成に向け、教育/学習のプロセスを通じ付加価値を付与すべく、「内部質保証」の仕掛けの中で達成状況評価を行い教育的旨の有効性を高めることが求められている。これと並行して、認証評価機関は、「ラーニング・アウトカム」ベースの内部質保証体制の構築状況やその機能的有効性を言わば「メタ評価」の手法により検証していくことを提唱している(大学基準協会『内部質保証ハンドブック』(2015)。このように我が国の高等教育質保証制度改革は、学修成果の測定・評価を軸とする大学の内部質保証と認証評価機関による外部質保証のハーモナイゼーションを指向する方向にある。

さて、近年経済成長著しいASEANでは、地域の単一市場化に向け「ASEAN 経済共同体(AEC)」の実現と並行させ、知的人材の育成に向け地域内学生移動の円滑化に資するために、「アウトカム評価」と「内部質保証」を重視する高等教育質保証の効果を地域全体で共有化する仕組みの構築が進められ実施段階に入ろうとしている。その意味において、現在進行中の大学質保証システム改革にあって、我が国はASEANの後塵を拝している、と意義づけることもできるのである。

これに関連して、近年、日中韓の間の学生移動は活発化の傾向にあり、教育質保証の裏付けを伴う「キャンパス・アジア」構想の推進を通じその流れを本格化することが企図されてきた。しかし、外交上の障壁が原因でその流れが停滞局面にある。そうした中、関係各国間で、ASEAN 域内経済協力の枠組みを日中韓にまで拡大させた「東アジア共同体」構想の一環として、「ASEAN + 3」の間でアウトカム評価に立脚した高等教育質保証の仕組みづくりが目指されようとしている。その動きが加速化していけば、我が国として、ASEAN 地域の高等教育質保証システムへの十全な理解が必要となることと併せ、ASEAN の質保証の仕組みとも整合し得るような「ラーニング・アウトカム」ベースの高等教育質保証体制の構築・運用の動きを今以上に加速させることが求められる。

さて、ASEAN 地域の高等教育質保証の特色・意義を考究するに当たり、「ドイツ学術交流会(DAAD)」や「ドイツ大学学長会議(HRK)」及び「欧州高等教育圏(EHEA)」の形成を見据えて高等教育質保証活動を展開している「欧州高等教育質保証協会(ENQA)」がASEAN に対し、同域を横断する高等教育質保証システム及びその運用の核となる同域固有の「高等教育資格枠組(EQF)」の構築支援を行っていることを忘れることはできない(SHARE プロジェクト)。このことは、ポーロニャ・プロセスに端を発した欧州由来のアウトカム評価を軸とする高等教育質保証システムがASEAN にどう制度移転され、如何に定着していくのかという興味深い論点を提示していた。

2. 研究の目的

ASEAN では、国別の高等教育を対象とする第三者評価の仕組みがアウトカム評価重視の方向で整備されつつある。併せ、ASEAN 域内での学生移動に伴う学位・単位の互換性の確保に向け、各国の質保証の効果を共有し合うための横断的取組が進められている。その仕組みの形成に当たり、学位等の取得に必要な知識・能力の一覧として国別に設定された「資格枠組(Qualifications Framework)」を基に、ASEAN 共通の資格枠組みの設定までもが構想されている。本研究は、「ASEAN + 3」という枠組みの中で、ASEAN の質保証連携の動きが日中韓にまで波及する兆しが見られる中、ASEAN が「ラーニング・アウトカム」ベースで

構築・運用している高等教育質保証システムの実相の検証を通じ、「内部質保証」を軸とする我が国高等教育質保証の今後を展望しようとするものである。

本研究の目的に即し、a)ASEAN の高等教育質保証システムを国別に把握する、b)ASEAN 域の高等教育質保証システムの連携・協働に向けた動きを把握しその意義を考察する、c)ASEAN を横断する質保証体制の構築に向け、EU 圏の大学・学術団体や大学アクリディテーション団体が果たしている役割を検証し、ボローニャ・プロセスで用いられた手法が ASEAN でどう根付いていくのかを検討する。d)高等教育質保証に向けた「ASEAN + 3」の連携構想において、今何が議論され、実際にどういう方向に向かおうとしているのかを考察する e)以上の調査や検討を踏まえ、我が国の高等教育質保証の在り方として、何が求められているのかを検討し、改善方策を提言する、ことを内容とする調査研究を実施する。その中身を以下に具体的に示す。

3. 研究の方法

本研究のメンバーは全員、ASEAN や北東アジアの高等教育に係る研究実績を有していた。また、同メンバーの 2/3 は認証評価機関に所属し若しくは強いつながりがあった。本調査は、そうした実施組織上の特質を生かしつつ、書面調査と訪問調査等により行った。研究計画期間中の最初の 2 年間は、訪問調査を中心とする超ア研究を進めた。しかしながら、コロナ禍の影響で、実際に現地に赴いての海外訪問調査が困難になる中、調査研究の軸足は、次第に書面調査に移っていった。

訪問調査については、まず、マレーシアの高等教育質保証システムを調査すべく、「マレーシア資格枠組(MQF) 高等教育レベル」を通じて、高等教育機関の質保証を行っている「マレーシア資格保証機構(MQA)」に赴いたほか、各大学の「内部質保証」の機能的有効性を検証する MQA のアクリディテーションに各大学がどう対応しているのかを探查するため、同国のテイラーズ大学とマレーシア国民大学の訪問調査を行った。続くインドネシア調査では、「インドネシア資格枠組(IQF)」に沿ってアウトカム評価を行っている「国立高等教育アクリディテーション機構(BANT-PT)」を主たる調査対象としたほか、受審校側の質保証に係る対応を調査するため、インドネシア国立大学(UI)、アトマジヤヤ大学(AJCU)を訪問した。さらに、ベトナムに関しては、同国の高等教育システムの構築・運用の一環を探るべく、「ベトナム国家大学ホーチミン校高等教育評価センター(VNU-HCM CEA)」に赴き聴き取り調査を行うとともに、相互交流を深めた。このほか、公共政策分野のアクリディテーションに従事している米国アクリディテーション機関 NASPAA によってアクリディットされているフルブライト大学ベトナム公共政策大学院を訪問し、米国の専門職アクリディテーション機関の評価基準に学内的にどう対応しているのか、の調査を行った。

そして、ASEAN の質保証に係る地域連携の影響が北東アジア地域に今後どう及ぶのか、を探る手掛かりとして、中国、韓国の高等教育質保証に係る政策・制度の探查を書面調査の方法で実施した。このほか、外部質保証の中軸に「学習成果」のアセスメントを据えた質保証の在り方を模索するため、その先端的取組を行っている上記の米国専門職大学院アクリディテーション機関の評価基準とその運用に係る書面調査も行った。なお、補足調査として、「学習成果(ラーニング・アウトカム)」の可視化を伴う達成度評価に関する欧米の学説動向の調査も行った。

以上の調査は、あらためてこれを簡潔にまとめると、次の a)~e)の 5 つの方法・視点に即して行った。

まず、a)「ASEAN の高等教育質保証システムの国別把握」に関しては、3年間を通じ、ASEAN 諸国の高等教育質保証機関の調査を書面調査と訪問調査の組み合わせで行った。このうち「ラーニング・アウトカム」の要素の学位別一覧（「高等教育資格枠組」）を基に評価を行っている機関は訪問調査対象とした（マレーシア、インドネシアの高等教育質保証システムの把握及びその意義の考察と、ASEAN 域の高等教育質保証システムの連携・協働に向けた動向把握など）。b)「ASEAN 域の高等教育質保証システムの連携・協働の動向把握とその意義の考察」に関しては、ASEAN 地域の高等教育質保証の連携体制を推進している ASEAN 横断的な地域高等教育質保証のためのネットワーク等の調査を通じ、連携・協働の動きを確認した上でその意義の解明を試みた。

c)「ASEAN 横断的質保証体制の構築に向け EU 圏の大学アクリディテーション団体等が果たしている役割の検証」に関しては、主として書面調査でこれを行った。

d)「ASEAN + 3」の連携構想の今後の方向性の考察」に関しては、書面調査でこれまでの経緯と現状及び将来展望を把握した。また併せ、同構想の一翼を担うことが期待されている中国、韓国の高等教育質保証システムの現状探査も、書面調査を通じて行った。

e)「我が国の高等教育質保証の在り方と改善策の提言」は言わば全体として政策提言の部分となすもので、我が国の「ラーニング・アウトカム」ベースの内部質保証及び認証評価の定着状況に関し、書面調査と関係者への聴き取り調査を行い、ASEAN 及び「ASEAN + 3」の質保証に係る連携状況を見極めた結果を踏まえ所要の提言をまとめた。

4. 研究成果

本調査研究の成果・着地点とその意義に関しては、次の諸点を挙げる事ができる。

第1に、これまで詳細が語られることのなかった「ラーニング・アウトカム」に依拠した ASEAN 質保証の国別並びに ASEAN という地域内における高等教育質保証連携の全体像を明らかにすることができた。

第2に、EU 圏でのボローニャ・プロセスの質保証の手法が、ASEAN で如何なる意図の下、どのような工程で実現が期されたのかが明らかにできた。

第3に、ASEAN の高等教育質保証システムが北東アジア圏の「キャンパス・アジア構想」の推進にどう影響を及ぼすかの考察の前提として、中国、韓国の高等教育質保証政策・制度に係る現段階の到達点を個別具体的に明らかにすることができた。

第4に、「ラーニング・アウトカム」のアセスメントの可視化を伴うものとして高等教育質保証を内部質保証、外部質保証の両側面から積極的に進めている事例調査の一環として、米国分野別アクリディテーション機関で公共政策専門職大学院のアクリディテーションを担っている NASPAA の先端的な取組を把握・紹介することができた。

第5に、補足的な文献調査として行われたものであるが、欧米における「ラーニング・アウトカム」のアセスメントに関する最新の学説動向の調査を通じて、高等教育質保証の「透明性」を確保するための方途、質保証プロセスへのステークホルダーの参画の在り方について新たな知見を得ることができたほか、ボローニャ・プロセスがその確立を目指した「欧州高等教育圏」並びに ASEAN 横断的な高等教育質保証枠組みの運用実体とその課題、そして米国アクリディテーションシステムの改革に向けた動き、などについて最新の情報を得ることができた。

第6に、本研究に従事した代表者、分担者の約 2/3 が認証評価機関の関係者であることの帰結として、本調査研究の実施過程の中で、我が国の認証評価制度改革に及ぼす影響につい

て明確かつ一定の見通しを提示することができ、その成果が大学評価実践の現場で活用されたほか、副次的効果として、本調査を機に、ASEAN の国別の第三者評価機関と分担者所属の個別認証評価機関が「交流協定締結」を締結するなど、双方の絆を深めることにも繋がった。

こうした成果を生み出すことのできた本調査研究の意義、学術的、独創的特質を、本調査研究の中心的アジェンダである ASEAN の高等教育質保証に焦点化し次の3点を簡潔に記しておきたい。

第1に挙げられるのが、本研究そのものが、従来あまり扱ってこなかった ASEAN の高等教育質保証に照準を当てたもので、国別の質保証システムの詳細を明らかにするとともに、ASEAN 域内の質保証連携の方向性を見極めることができたことである。

第2点としては、高等教育質保証をアウトカム評価の視点から考察するとともに、EQ 圏由来の仕掛けであり ASEAN の同評価の根幹を成している「高等教育資格枠組」の実相を ASEAN の国別、ASEAN 域全体の双方から把握し・検証を行うことができたことにある。

第3点として、ASEAN は傾向的に「プログラム・レビュー」重視の方式であることと相俟って、「ラーニング・アウトカム」の測定・評価を軸とする「内部質保証」に ASEAN の第三者評価機関が制度的にどうコミットしようとしていたのかの検討を行うことができたことにある。

第4に、本研究の構成メンバー の多くが認証評価機関関係者であることに伴い、「ASEAN + 3」の枠組みの中での ASEAN の質保証に係る実践が、我が国認証評価制度に如何なる影響をもたらすのかを実証的に研究できたことにある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 早田幸政・堀井祐介	4. 巻 第54巻第2号
2. 論文標題 [資料]欧州圏における高等教育資格の国境を越えた通用性に関する規範枠組	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較法雑誌	6. 最初と最後の頁 pp.123-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早田幸政	4. 巻 第63集
2. 論文標題 米国公共サービス分野の専門人材養成教育の質保証と「学習成果」のアセスメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学論集	6. 最初と最後の頁 pp.103-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤潤	4. 巻 No.609
2. 論文標題 認証評価制度改革の方向と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE	6. 最初と最後の頁 43-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田早苗	4. 巻 No.612
2. 論文標題 アメリカにおける教育の質保証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤潤、早田幸政、原和世	4. 巻 第18号
2. 論文標題 マレーシアにおける高等教育質保証 MQAとマレーシア高等教育機関の訪問調査報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 63-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島本英樹、堀井祐介、工藤潤、原和世、早田幸政	4. 巻 No.8
2. 論文標題 ベトナムにおける高等教育質保証システムの現状 ASEANにおける高等教育質保証のグローバル化を視野に入れて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪大学高等教育研究	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早田幸政	4. 巻 第17号
2. 論文標題 ASEAN地域における高等教育質保証連携と「資格枠組み(QF)」の構築・運用の現段階	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学基準協会『大学評価研究』	6. 最初と最後の頁 39頁、59頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田早苗	4. 巻 第17巻
2. 論文標題 アメリカのアクレディテーションをめぐる近年の状況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学基準協会『大学評価研究』	6. 最初と最後の頁 17頁、24頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀井祐介	4. 巻 第17巻
2. 論文標題 ヨーロッパにおける大学評価の最新の動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学基準協会『大学評価研究』	6. 最初と最後の頁 25頁、31頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早田幸政・前田早苗・島本英樹・田代守	4. 巻 第40号
2. 論文標題 インドネシアにおける高等教育質保証システムに関する実地調査報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央大学『中央大学論集』	6. 最初と最後の頁 141頁、154頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早田幸政	4. 巻 16号
2. 論文標題 大学基準協会の活動の航跡を振り返って	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田早苗	4. 巻 16号
2. 論文標題 認証評価機関としての大学基準協会の歩み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 工藤潤	4. 巻 16号
2. 論文標題 大学基準協会のこれから果たすべき役割	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早田幸政	4. 巻 595号
2. 論文標題 第3期認証評価の展望	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田早苗	4. 巻 595号
2. 論文標題 認証評価の現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤潤	4. 巻 595号
2. 論文標題 大学基準協会による第3期認証評価	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林透	4. 巻 19号
2. 論文標題 ベトナム高等教育における外部質保証と内部質保証に関する考察－ASEAN地域における高等教育質保証システムから得られる示唆－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 113-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早田幸政	4. 巻 55巻3号
2. 論文標題 高等教育ア krediteーション機関を対象とする米国連邦教育省認証法制－「認証基準」を軸に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較法雑誌	6. 最初と最後の頁 173-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 早田幸政
2. 発表標題 「確かな学力」に根差す高大接続の方向性と今後の大学評価の在り方
3. 学会等名 大学評価学会第18回全国大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 早田幸政編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 270頁
3. 書名 教員養成教育の質保証への提言	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 透 (HAYASI Toru) (20582951)	山口大学・大学教育機構・准教授 (15501)	
研究分担者	堀井 祐介 (HORII Yusuke) (30304041)	金沢大学・高等教育開発・支援系・教授 (13301)	
研究分担者	前田 早苗 (MAEDA Sanae) (40360739)	千葉大学・国際教養学部・教授 (12501)	
研究分担者	望月 太郎 (MOCHIZUKI Taro) (50239571)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	島本 英樹 (SHIMAMOTO Hideki) (50299575)	大阪大学・全学教育推進機構・准教授 (14401)	
研究分担者	工藤 潤 (KUDO Jun) (70360740)	公益財団法人大学基準協会(大学評価研究所、高等教育のあり方研究会及び評価研究部)・大学評価研究所・特任研究員 (82638)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------